

学校名（生徒数）	近江八幡市立八幡東中学校（535人）
----------	--------------------

（本研究に係る問い合わせ先）

所在地：近江八幡市上田町1751番地

電話番号：0748-37-1112

### 【研究の目的，研究内容】

#### （1）H26全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

##### A問題から

- ・ 文脈に即して漢字を正しく書く力
- ・ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う力

##### B問題から

- ・ 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える力
- ・ 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く力
- ・ 根拠を明確にして自分の考えを書く力

#### （2）課題解決に向けた改善策

- ・ 上記の課題について、改善策としての取組を昨年度に引き続き校内研究に位置づけて国語科部会を中心に進める。
- ・ 昨年度の実践を踏まえて、引き続いて第2学年で授業研究を設定し、本校の課題である記述力を高めるための授業の手だてを工夫し、実践する。
- ・ 授業後の検証のため、評価問題に取り組みさせて定着をみる。

#### （3）研究体制

研究推進委員会（校長・教頭・教務・各学年担当・特別支援担当）

↓

各教科部会（国語科部会）

各学年部

#### （4）1年間の主な取組の経過

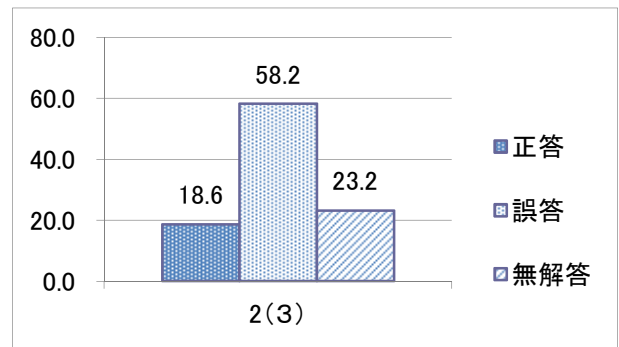
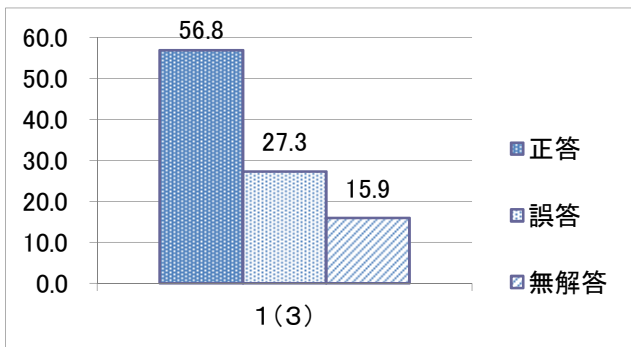
- |             |                  |                             |
|-------------|------------------|-----------------------------|
| ・ 4月 3日（木）  | 第1回教科部会          | 今年度の取組の検討                   |
| ・ 5月 1日（木）  | 全国学力・学習状況調査の自校採点 |                             |
| ・ 8月28日（木）  | 第2回教科部会          | 調査結果の分析と研究授業の構想検討           |
| ・ 10月 9日（木） | 第3回教科部会          | 研究授業指導案検討                   |
| ・ 10月23日（木） | 第4回教科部会          | 指導主事来校・助言                   |
| ・ 11月19日（水） | 校内授業研究会          | 2年国語科<br>「君は『最後の晚餐』を知っているか」 |
| ・ 1月 9日（金）  | 評価問題の実施と採点       |                             |
| ・ 2月 5日（木）  | 国語科教科部会          | 評価問題結果の分析と研究のまとめ            |



## 【研究成果と課題】

(1) 研究成果 (2年生国語科における結果)

評価問題の結果 (記述問題)



## 質問紙の結果

400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか

そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない  回答なし



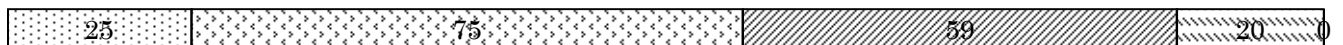
今回の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか

そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない  回答なし



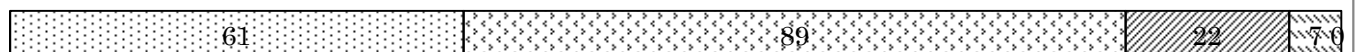
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない  回答なし



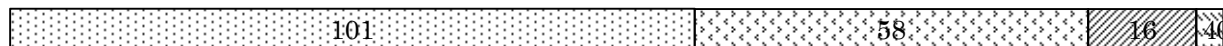
評論文の書き方がわかりましたか

そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない  回答なし



### 電子黒板を使った授業はわかりやすいですか

そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない  回答なし



- ・ 評価問題の結果からは記述問題について無解答率が高いことが分かる。昨年と比較してもやや高く、本校生徒の課題が大きいと言える。
- ・ 質問紙からは、原稿用紙に作文することを難しいと感じながらも、今回の評価問題については、最後まで取り組もうと努力したことが分かる。
- ・ 今回の授業研究では、構成や推敲の段階で交流して思考を深める場面を設定した。仲間の考えを知り、自分の作文に活かすことができたようである。
- ・ 「団旗を評論しよう」の授業では、評論文を作文するために、材料を集めて書く内容を吟味する手だてとしてワークシートを作成し、それを活用して作文の下書きをさせたところ、作文の仕方がわかったという生徒の感想が多かった。スモールステップによるワークシートの工夫が効果的であることが分かる。ただ、昨年の課題にも挙げたように、ワークシート頼みでしか作文ができない状況に取り組んでいかなければならない。
- ・ 電子黒板を使った授業を試みたところ、生徒が画面に注目することが多くなった。またタブレットを活用することによって、机間指導しながら教材を提示したり、瞬時に生徒のノートを画面に提示することができ、授業をスムーズに、かつ、わかりやすく進めることができた。

#### (2) 課題等

- ・ 今回の研究授業では、評論文を書くために、説得力のある根拠を示すことを学習したが、説得力のある根拠について、生徒同士が焦点を絞って吟味し論議する場面が十分でなく、思考が深まったかは疑問である。さらなる授業プランの検討が必要である。
- ・ 授業改善の取組を進めているところではあるが、生徒の記述することへの意欲はなかなか改善することができず、引き続き自分の考えについて根拠を示して記述することへの取組を進めていかなければならない。
- ・ 生徒の記述についての課題は、書くことを習慣化すること、書くための思考の手順を習得することにある。そのために小学校での指導の連携や、家庭学習の仕方についての指導を検討していく必要がある
- ・ 各教科において授業改善を進め、教科の特性に応じた言語活動の充実を具体化した授業実践が必要である。授業研究会を重ねて、講義調の授業から生徒の活動や思考を中心に据えた授業プランへ教師側の意識の改善が必要である。

#### (3) 来年度への見通し

- ・ 校内研究としては、来年度の重点目標として、国語科から発信した内容を各教科に広げ、各教科において、1単元の中に交流する場面を設けて生徒が思考し、記述する授業づくりを目指していきたい。